

## 1年生、奨学制度による韓国・中国研修へ

今年で2回目となる海外留学奨励奨学制度により、  
1年生が韓国・中国研修に行ってきました。

### ●韓国研修

韓国言語文化コースの1年生23名と、第2外国語として韓国語を履修している学生3名が、5月31～6月5日、韓国の姉妹大学で短期研修を行いました。



出発式にて

姉妹大学では韓国と韓国語に関する講義のほか、学生交流も行いました。早いうちから現地を体験し、韓国語でのコミュニケーションにチャレンジ



一人ひとりの決意表明



することで、今後の学習目標が見つかることと思います。

この研修では、海外留学を奨励するために、意欲や将来性など一定の条件のもと、大学から研修費用が支給されます。出発前の式で学生たちは、一人ひとり研修目的を述べ、奨励生の名に恥じないよう充実した研修を行うことを誓いました。



成田空港にて

### ●中国研修



出発式にて

中国言語文化コース1年生たちは、6月14～19日、中国大連・瀋陽の姉妹大学での短期研修を行いました。

姉妹大学では中国語や中国の<現在>に関する講義の



姉妹大学学生と交流

ほか、学生交流も行いました。お互いの学生生活について情報交換をして、それぞれ長期留学の夢を具体的にできればよいと思います。

なお、この研修では、海外留学を奨励するために、中国言語文化コースの学生か、第2外国語として中国語を習得し

ようとする学生を対象として、大学から研修費用が支給されます。参加者たちは出発式で、奨励生の名に恥じないよう充実した研修を行うことを誓いました。



旅順博物館にて

両国研修の様子と成果は、国際文化学科サイトにも掲載されます。

### 最新ニュース

●1年生、奨学制度による韓国・中国研修へ

P1

●「ハングル能力検定試験」[TOPIK]

合格者数発表

●ただいま中国留学中

●ただいま韓国留学中

●高校生小論文

コンテスト作品募集

P2

城西国際大学  
国際人文学部  
国際文化学科

〒283-8555  
千葉県東金市求名1番地

TEL:  
0475-55-8800 (代)

FAX:  
0475-55-8811

学科Web サイト

URL:

<http://www.jiu.ac.jp/cultural>

## 「ハングル能力検定試験」 「韓国語能力試験(TOPIK)」 合格者数発表

6月3日(日)に実施された「ハングル能力検定試験」の合格者の発表です。今回は、主に韓国言語文化コースの2年生が中心でした。

合格者は以下の通りです。

●3年生: 準2級(秋田県出身) 1名

●2年生: 3級(宮崎県、群馬県、神奈川県、岩手県出身) 4名

●2年生: 4級(新潟県、埼玉県、千葉県、岩手県出身) 6名

「韓国語能力試験」(TOPIK)の合格者も出ました。

●4年生: TOPIK4級(ハングル能力検定2級以上レベル) 1名

●2年生: TOPIK2級(ハングル能力検定3級レベル) 1名

なお、秋季の「ハングル能力検定試験」(11月実施予定)には全員3級と準2級を受験する予定です。



### ただいま中国留学中

北京外国語大の寮には6号楼、7号楼、白楼、国交楼があります。それぞれ一人部屋、二人部屋があります。私は今、白楼に住んでいます。最初来たときは寮の部屋の中はなにもなくて真っ白な部屋でした。そこから色々買って自分の住みやすい部屋にしていきました。



寮の中には、たくさんの国の人が住んでいます。その中で、友達がたくさんできました。トイレ、風呂なども共同なので、寮に住んでる人も会う機会が多いです。一緒にご飯を食べに行く友達や、挨拶をするだけの友達がいます。留学に来ている人たちは、皆親しみやすく、すぐ友達になれます。特に欧米人の人たちは、いつも親しみやすく、とても楽しいです。(国際文化学科2年、佐竹)

### ただいま韓国留学中



6月になり、ここ大田は夏のように毎日暑い日が続いています。さて6月はいろいろなことがありました。まず期末試験がありました。期末試験は今までの月末試験とは違いTOPIK(韓国語能力試験)方式で出題されるということだったので、少し焦りましたがなんとか終えることができました。そして何日か後に修了式がありました。ここで修了証書が渡されて無事前期を終えることができました。それとともに、前期のクラスのみんなともお別れだったので寂しかったです。(国際文化学科2年、藤原)

※国際文化学科生の留学報告ブログは、国際文化学科ウェブサイト随時掲載されています。

### 短信: 吉増剛造賞 高校生小論文コンテスト 作品募集

#### グローバル時代の〈絆〉について考えよう

東日本大震災を経験した日本では、〈絆〉の重要性がさげられるようになりました。人は、ひとりでは生きていけない、他者や自然とのかかわりの中で生きる・生かされている存在なのだ、ということが再認識されました。グローバル時代に生きる私たちは、望むと望まざるとにかかわらず、世界の人々とつながっています。

そこで、グローバル時代に生きる高校生が〈絆〉をその若々しい感性でどのようにとらえているのか、小論文にまとめていただきたいと考え、「吉増剛造賞 第4回小論文コンテスト」への応募を呼びかけます。

詳しい募集要項については、国際文化学科サイトをご覧ください。